

9月14日 食品衛生分科会

その他の報告事項
に関する資料

(3)その他の報告事項

- ・ 食品衛生分科会における審議・報告対象品目の処理状況について . . . 1～2
- ・ 平成 24 年度食品中の残留農薬等検査結果 . . . 3～9
- ・ 食品用器具及び容器包装の規制に関する検討会について・10～11
- ・ 食品衛生管理の国際標準化に関する検討について . . . 12～13

食品衛生分科会における審議・報告対象品目の処理状況について
 (前回平成28年6月15日に開催の食品衛生分科会において、審議又は報告を行った農薬等及び添加物)

分科会	分類	剤名	パブリックコメントの状況		WTO通報の状況		備考
6月15日	農薬	ピシクロピロン	今後実施予定	—	WTO通報の対象外	—	—
"	動薬	イプロンダゾール、ジメトリダゾール、メトロンダゾール及びロニダゾール試験法	今後実施予定	—	WTO通報の対象外	—	—
"	動薬	クロラムフェニコール試験法	今後実施予定	—	WTO通報の対象外	—	—
"	動薬	カプタホール試験法(畜水産物)	今後実施予定	—	WTO通報の対象外	—	—
"	農薬	アセトクロール	平成28年5月11日～平成28年6月9日	意見あり	平成28年3月30日～平成28年5月29日	意見なし	基準値(案)の変更なし
"	農薬	イソピラザム	今後実施予定	—	WTO通報の対象外	—	—
"	農薬	エトフメセート	今後実施予定	—	平成28年8月2日～平成28年10月1日	実施中	—
"	農薬	ジエトフェンカルブ	平成28年5月11日～平成28年6月9日	意見あり	平成28年3月30日～平成28年5月29日	意見なし	基準値(案)の変更なし
"	農薬	1,3-ジクロロプロペン	今後実施予定	—	WTO通報の対象外	—	—
"	農薬	テブコナゾール	平成28年5月11日～平成28年6月9日	意見あり	WTO通報の対象外	—	基準値(案)の変更なし
"	農薬	テブラロキシジム	平成28年5月11日～平成28年6月9日	意見あり	平成28年3月30日～平成28年5月29日	意見なし	基準値(案)の変更なし
"	農薬	トリフロキシストロビン	平成28年5月11日～平成28年6月9日	意見あり	WTO通報の対象外	—	基準値(案)の変更なし
"	農薬・動薬	フェノブカルブ	平成28年5月11日～平成28年6月9日	意見あり	平成28年5月10日～平成28年7月9日	意見なし	基準値(案)の変更なし
"	農薬	フェンヘキサミド	平成28年5月11日～平成28年6月9日	意見あり	平成28年5月10日～平成28年7月9日	意見なし	基準値(案)の変更なし
"	農薬	フルオピラム	平成28年5月11日～平成28年6月9日	意見あり	平成28年5月10日～平成28年7月9日	意見なし	基準値(案)の変更なし
"	農薬	ベンチアバリカルブイソプロピル	平成28年5月11日～平成28年6月9日	意見あり	WTO通報の対象外	—	基準値(案)の変更なし
	農薬	フルアジホップブチル	今後実施予定	—	平成28年8月2日～平成28年10月1日	実施中	—
	動薬	エリスロマイシン	今後実施予定	—	平成28年8月2日～平成28年10月1日	実施中	—
	動薬	ピペラジン	今後実施予定	—	平成28年8月2日～平成28年10月1日	実施中	—
	動薬	フルアズロン	平成27年12月25日～平成28年1月23日	意見あり	WTO通報の対象外	—	基準値(案)の変更なし
	動薬	フルベンダゾール	平成28年5月11日～平成28年6月9日	意見あり	平成28年5月10日～平成28年7月9日	意見なし	基準値(案)の変更なし
	動薬	フルメトリン	今後実施予定	—	平成28年8月2日～平成28年10月1日	実施中	—
"	動薬	フロルフェニコール	平成28年5月11日～平成28年6月9日	意見あり	平成28年5月10日～平成28年7月9日	意見あり	基準値(案)の変更なし
"	動薬	ベダプロフェン	今後実施予定	—	WTO通報の対象外	—	—

"	動薬	メクロプラミド	今後実施予定	—	平成28年8月2日～ 平成28年10月1日	実施中	—
"	農薬	エトフェンプロックス	今後実施予定	—	平成28年8月2日～ 平成28年10月1日	実施中	—
"	動薬	セフチオフル	平成28年5月11日～ 平成28年6月9日	意見あり	WTO通報の対象外	—	基準値(案) の変更なし
"	添加物	過酸化水素	平成28年7月22日～ 平成28年8月20日	意見あり	今後実施予定	—	—

平成24年度 食品中の残留農薬等検査結果

食品中の農薬、飼料添加物及び動物用医薬品（以下「農薬等」という。）については、地方公共団体による国内流通品の検査や検疫所による輸入食品の検査^{注1)}が監視指導計画等に基づき行われており、検査の結果、残留基準に適合しない場合には回収、廃棄等の措置が講じられるほか、必要に応じて、農薬等の適切な使用等について指導が行われている。

今般、平成24年度に実施された検査について、地方公共団体及び検疫所から報告があった検査結果をとりまとめたので報告する^{注2)}。

注1) 検疫所による検査は、登録検査機関により通関前に実施される命令検査及び自主検査を含む。

注2) 畜水産食品の残留有害物質モニタリング検査の結果を含む。

1. 集計方法

地方公共団体及び検疫所から報告された平成24年度の検査結果について、検査対象の各食品を国産品・輸入品に区分した上、農薬等の検査数、検出数、基準値超過数、検出値の範囲（最小値、最大値）等を集計した。

集計解析は、国立医薬品食品衛生研究所食品部に委託した。

なお、各検査機関における試験法や検出限界等は統一されておらず、検出値が0.01ppm未満であっても、検出事例として検出数に計上した。

2. 集計結果及び考察

全食品及び各食品区分（農産物、畜水産物、加工食品）における農薬等の検査数、検出数及び基準値超過数を表1にとりまとめた。また、食品区分ごとに、全体、国産品、輸入品の別で、検出割合が高い農薬等（各年度、検査数が100件以上であった農薬等のうち、上位20品目）について、検査数、検出数、検出割合、検出値の範囲（最小値、最大値）を表2～10にとりまとめた。

表1:総括表（検査数、検出数、基準値超過数等）

表2-表10:検出割合の高い農薬等（検査数100件以上の農薬等について集計）

表2	農産物（全体）
表3	農産物（国産品）
表4	農産物（輸入品）
表5	畜水産物（全体）
表6	畜水産物（国産品）
表7	畜水産物（輸入品）
表8	加工食品（全体）
表9	加工食品（国産品）
表10	加工食品（輸入品）

(1) 全体

検査の総数は、418 万件であった。

国産品・輸入品を合わせた全体での検出割合は、0.30%であった。

基準値超過数及び割合は、371 件、0.009%であった。

(2) 農産物

輸入品については、161 万件の検査が実施された。検査全体に占める基準値超過の割合は、0.010%であった。

国産品については、102 万件の検査が実施され、基準値超過の割合は、0.002%であった。

国産品（表 3）、輸入品（表 4）の別にみると、検出割合が高い農薬等の種類が異なっているが、これは国内と諸外国とで汎用されている農薬等が異なることなどによるものと考えられる。同様の傾向が後述の畜水産物及び加工食品でも認められた。

(3) 畜水産物

輸入品については、13 万件の検査が実施された。検査全体に占める基準値超過の割合は、0.045%であった。

国産品については、19 万件の検査が実施され、基準値超過の割合は、0.013%であった。

国産品（表 6）、輸入品（表 7）の別にみると、検出割合が高い農薬等の種類が異なっているが、これは国内と諸外国とで汎用されている農薬等が異なることなどによるものと考えられる。

(4) 加工食品

輸入品については、116 万件の検査が実施された。検査全体に占める基準値超過の割合は、0.009%であった。

国産品については、7 万件の検査が実施され、基準値超過の割合は、0.003%であった。

国産品（表 9）、輸入品（表 10）の別にみると、検出割合が高い農薬等の種類が異なっているが、これは国内と諸外国とで汎用されている農薬等が異なることなどによるものと考えられる。

3. まとめ

本集計結果から、基準値超過の割合はいずれも低く、我が国で流通している食品における農薬等の残留レベルは十分に低いものと考えられる。

(参考)

<報告のあった地方公共団体（120機関）>

札幌市、旭川市、函館市、小樽市、青森県、青森市、岩手県、盛岡市、宮城県、仙台市、秋田県、秋田市、山形県、福島県、郡山市、いわき市、茨城県、栃木県、宇都宮市、群馬県、前橋市、高崎市、埼玉県、川越市、千葉県、千葉市、船橋市、柏市、東京都、八王子市、足立区、板橋区、江戸川区、葛飾区、北区、江東区、新宿区、杉並区、世田谷区、豊島区、練馬区、神奈川県、川崎市、横須賀市、相模原市、藤沢市、新潟県、新潟市、富山県、富山市、石川県、金沢市、福井県、山梨県、長野県、長野市、岐阜県、岐阜市、静岡県、静岡市、浜松市、愛知県、岡崎市、豊橋市、豊田市、三重県、四日市市、滋賀県、大津市、京都府、京都市、大阪府、大阪市、堺市、高槻市、東大阪市、豊中市、兵庫県、神戸市、姫路市、尼崎市、西宮市、奈良県、奈良市、和歌山県、和歌山市、鳥取県、島根県、岡山県、岡山市、倉敷市、広島県、広島市、呉市、福山市、下関市、徳島県、香川県、高松市、愛媛県、松山市、高知県、高知市、福岡県、福岡市、久留米市、大牟田市、佐賀県、長崎県、長崎市、佐世保市、熊本県、熊本市、大分県、大分市、宮崎県、宮崎市、鹿児島県、鹿児島市、沖縄県

表1 総括表 (検査数、検出数、基準値超過数等)

全食品

自治 体数	検査数		検出数		基準値超過数 ^{注2)}										
	国産	輸入	国産	輸入	国産	輸入									
120	1,281,284	2,903,459	4,184,743	3,717	0.29	8,687	0.30	12,404	0.30	46	0.004	325	0.011	371	0.009

農産物

検査100件以上の農業等数		検査数		検出数		基準値超過数 ^{注2)}										
国産	輸入	国産	輸入	国産	輸入	国産	輸入									
572	480	1,015,879	1,609,811	2,625,690	3,377	0.33	7,179	0.45	10,556	0.40	19	0.002	160	0.010	179	0.007

畜水産物

検査100件以上の農業等数		検査数		検出数		基準値超過数 ^{注2)}										
国産	輸入	国産	輸入	国産	輸入	国産	輸入									
266	195	194,555	128,803	323,358	134	0.07	219	0.17	353	0.11	25	0.013	58	0.045	83	0.026

加工食品

検査100件以上の農業等数		検査数		検出数		基準値超過数 ^{注2)}										
国産	輸入	国産	輸入	国産	輸入	国産	輸入									
366	487	70,850	1,164,845	1,235,695	206	0.29	1,289	0.11	1,495	0.12	2	0.003	107	0.009	109	0.009

注1) 農薬、動物用医薬品、飼料添加物について検査結果の集計を実施。ただし、抗生物質等は機器分析による結果のみ。

注2) 各年度時点の基準値について、自治体及び検査所より基準値超過として報告された結果を集計した。

表2 農産物(全体)

農薬等	検査数	検出数		検出値(ppm)	
		件数	%	最小	最大
グリホサート	247	131	53.04	0.01	6.3
臭化メチル	166	25	15.06	0.6	33
カルベンダジム、チオファネート、チオファネートメチル及びベノミル	530	47	8.87	0.005	1
イミダクロプリド	11,517	924	8.02	0.0001	2.4
チアベンダゾール	6,565	483	7.36	0.00001	8
イマザリル	5,348	327	6.11	0.0004	5.2
クロラントラニプロール	175	10	5.71	0.01	0.19
ボスカリド	9,142	470	5.14	0.001	1.8
アゾキシストロビン	10,247	432	4.22	0.002	9.3
クロルピリホス	15,525	588	3.79	0.001	2
ジノテフラン	5,237	191	3.65	0.01	23.2
アセタミプリド	6,964	235	3.37	0.001	3.572
クロチアニジン	3,659	122	3.33	0.0001	0.42
オルトフェニルフェノール	439	14	3.19	0.0006	2
シベルメリン	12,564	342	2.72	0.01	3.86
クロルフェナピル	12,011	323	2.69	0.007	1.4
クロロタロニル	861	22	2.56	0.01	0.52
ピラクrostロビン	4,985	121	2.43	0.003	1.74
2, 4-D	7,014	163	2.32	0.00006	0.27
ピフェントリン	12,423	272	2.19	0.0015	2.7

表3 農産物(国産品)

農薬等	検査数	検出数		検出値(ppm)	
		件数	%	最小	最大
カルベンダジム、チオファネート、チオファネートメチル及びベノミル	449	42	9.35	0.005	1
ジノテフラン	835	75	8.98	0.01	23.2
クロラントラニプロール	110	6	5.45	0.02	0.19
アセタミプリド	3,104	153	4.93	0.001	3.572
イミダクロプリド	3,203	135	4.21	0.0001	2.4
ボスカリド	2,792	113	4.05	0.002	1
クレンキシムメチル	4,746	187	3.94	0.003	21
クロチアニジン	2,924	114	3.90	0.0001	0.42
プロシメドン	5,123	188	3.67	0.003	0.84
クロロタロニル	607	19	3.13	0.01	0.52
アゾキシストロビン	3,698	111	3.00	0.002	9.3
クロルフェナピル	4,548	135	2.97	0.007	1.2
シベルメリン	4,889	135	2.76	0.01	1.17
ジクロメジン	151	4	2.65	0.0001	0.0011
フルフェノクスロン	3,217	79	2.46	0.001	2.1
酸化フェンブタズ	125	3	2.40	0.002	0.005
トルフェンピラド	2,519	54	2.14	0.003	3
チアトキサム	2,981	63	2.11	0.0001	1
ジクローブロッブ	522	11	2.11	0.01	0.04
イプロジオン	2,383	49	2.06	0.006	0.43

表4 農産物(輸入品)

農薬等	検査数	検出数		検出値(ppm)	
		件数	%	最小	最大
グリホサート	245	131	53.47	0.01	6.3
臭化メチル	134	24	17.91	1	33
チアベンダゾール	4,556	481	10.56	0.0002	8
イマザリル	3,362	324	9.64	0.0004	5.2
イミダクロプリド	8,314	789	9.49	0.001	0.87
ボスカリド	6,350	357	5.62	0.001	1.8
クロルピリホス	9,699	542	5.59	0.001	2
オルトフェニルフェノール	256	14	5.47	0.0006	2
アゾキシストロビン	6,549	321	4.90	0.002	5.19
ピラクrostロビン	3,094	103	3.33	0.01	1.74
ピフェントリン	7,533	243	3.23	0.0015	2.7
シベルメリン	7,675	207	2.70	0.01	3.86
ジノテフラン	4,402	116	2.64	0.01	0.58
クロルフェナピル	7,463	188	2.52	0.01	1.4
シプロジニル	4,706	113	2.40	0.001	0.5
2, 4-D	6,624	159	2.40	0.005	0.27
インドキサカルブ	6,473	141	2.18	0.01	0.18
アセタミプリド	3,860	82	2.12	0.006	0.57
イプロジオン	681	14	2.06	0.003	1.4
シロマジン	393	8	2.04	0.01	0.1

表5 畜水産物(全体)

農薬等	検査数	検出数		検出値(ppm)	
		件数	%	最小	最大
プロメリン	820	92	11.22	0.001	0.08
エトキシキン	1,295	64	4.94	0.01	0.15
ドキシサイクリン	515	19	3.69	0.02	0.98
アンピシリン	240	5	2.08	0.02	9.1
DDT	1,597	17	1.06	0.0005	0.2
ラサロシド	282	3	1.06	0.0009	0.0039
オキシテトラサイクリン	5,095	51	1.00	0.005	1.12
オキシテトラサイクリン、クロルテトラサイクリン及びテトラサイクリン	981	7	0.71	0.02	0.29
リンコマイシン	2,256	16	0.71	0.01	0.44
ヒドロコルチゾン	299	2	0.67	0.01	0.01
BHC	331	2	0.60	0.002	0.004
セファゾリン	374	2	0.53	0.03	0.82
ナイカルバジン	1,671	7	0.42	0.0013	0.07
ジヒドロストレプトマイシン	246	1	0.41	0.02	0.02
モキシデクテン	361	1	0.28	0.009	0.009
ジクラズリル	765	2	0.26	0.02	0.03
ラクトバミン	402	1	0.25	0.001	0.001
ベンジルベニシリン	2,125	5	0.24	0.04	0.34
トリフルラリン	872	2	0.23	0.002	0.002
メンプトン	977	2	0.20	0.24	3.29

表6 畜水産物(国産品)

農薬等	検査数	検出数		検出値(ppm)	
		件数	%	最小	最大
ドキシサイクリン	414	19	4.59	0.02	0.98
アンピシリン	219	5	2.28	0.02	9.1
DDT	576	13	2.26	0.0005	0.02
オキシテトラサイクリン	2,829	30	1.06	0.005	1.12
リンコマイシン	1,714	16	0.93	0.01	0.44
オキシテトラサイクリン、クロルテトラサイクリン及びテトラサイクリン	879	7	0.80	0.02	0.29
セファゾリン	276	2	0.72	0.03	0.82
BHC	298	2	0.67	0.002	0.004
メンプトン	617	2	0.32	0.24	3.29
ベンジルベニシリン	1,575	5	0.32	0.04	0.34
アルドリン及びディルドリン	363	1	0.28	0.003	0.003
イベルメクチン	435	1	0.23	0.211	0.211
ヘプタクロル	437	1	0.23	0.001	0.001
クロルテトラサイクリン	2,630	5	0.19	0.07	0.25
テトラサイクリン	2,599	3	0.12	0.08	0.3
オフロキサシン	1,321	1	0.08	2.03	2.03
スルファモノメトキシキン	5,159	3	0.06	0.03	1.52
オキシリニック酸	4,316	2	0.05	0.012	0.02
フルベンダゾール	3,108	1	0.03	0.01	0.01
オルメトプリム	3,688	1	0.03	0.05	0.05

表7 畜水産物(輸入品)

農薬等	検査数	検出数		検出値(ppm)	
		件数	%	最小	最大
プロメリン	695	92	13.24	0.001	0.08
エトキシキン	1,295	64	4.94	0.01	0.15
ナイカルバジン	347	7	2.02	0.0013	0.07
オキシテトラサイクリン	2,266	21	0.93	0.02	0.4
モキシデクテン	196	1	0.51	0.009	0.009
ジクラズリル	451	2	0.44	0.02	0.03
ジヒドロストレプトマイシン	246	1	0.41	0.02	0.02
DDT	1,021	4	0.39	0.1	0.2
ラクトバミン	347	1	0.29	0.001	0.001
トリフルラリン	749	2	0.27	0.002	0.002
ベンディメタリン	976	2	0.20	0.01	0.11
チアベンダゾール	566	1	0.18	0.005	0.005
オフロキサシン	1,161	2	0.17	0.02	0.04
クロピドール	613	1	0.16	0.02	0.02
フロルフェニコール	726	1	0.14	0.03	0.03
オキシリニック酸	1,465	2	0.14	0.03	0.5
ピリメタミン	746	1	0.13	0.03	0.03
3-アミノ-2-オキサゾリドン	3,502	4	0.11	0.001	0.015
エンフロキサシン	2,937	3	0.10	0.02	0.04
フルメキン	995	1	0.10	0.02	0.02

表8 加工食品(全体)

農薬等	検査数	検出数		検出値(ppm)	
		件数	%	最小	最大
カルベンダジム、チオファネート、チオファネートメチル及びベノミル	110	9	8.18	0.01	0.2
シベルメリン	3,372	151	4.48	0.009	0.86
アセタミプリド	1,371	60	4.38	0.001	0.1
イミダクロプリド	2,728	106	3.89	0.001	0.2
ディルドリン	4,280	139	3.25	0.002	0.2
メタラキシル及びメフェノキサム	2,492	63	2.53	0.002	0.07
クロルフルアズロン	250	6	2.40	0.01	0.079
チオジカルブ及びメソミル	222	5	2.25	0.027	0.1
ヘキサクロベンゼン	1,140	22	1.93	0.01	0.04
フルフェノクスロン	1,766	33	1.87	0.001	0.35
ジトモルフ	2,511	46	1.83	0.001	0.34
アゾキシストロビン	2,601	41	1.58	0.001	0.4
プロシミドン	3,185	48	1.51	0.005	0.39
クロチアニジン	397	5	1.26	0.002	0.02
メソミル	2,157	27	1.25	0.01	0.15
エトキシキン	3,617	43	1.19	0.01	0.06
ボスカリド	2,519	28	1.11	0.001	0.67
プロバモカルブ	186	2	1.08	0.001	0.003
トルフェンピラド	1,119	12	1.07	0.002	0.03
イソプロチオラン	2,592	27	1.04	0.01	0.05

表9 加工食品(国産品)

農薬等	検査数	検出数		検出値(ppm)	
		件数	%	最小	最大
チアトキサム	204	18	8.82	0.001	0.03
ボスカリド	175	14	8.00	0.001	0.02
アセタミプリド	222	17	7.66	0.001	0.07
トルフェンピラド	164	12	7.32	0.002	0.03
メタラキシル及びメフェノキサム	184	10	5.43	0.002	0.03
ホスチアゼート	236	12	5.08	0.001	0.05
アゾキシストロビン	212	10	4.72	0.001	0.05
シアゾファミド	141	6	4.26	0.001	1
フルフェノクスロン	202	8	3.96	0.001	0.09
クロチアニジン	158	5	3.16	0.002	0.02
イミダクロプリド	207	6	2.90	0.002	0.01
トリフルミゾール	209	5	2.39	0.004	0.035
デフルトリン	212	5	2.36	0.002	0.03
クレソキシムメチル	226	5	2.21	0.006	0.1
シベルメリン	258	5	1.94	0.009	0.02
フルジオキシニル	215	3	1.40	0.01	0.07
エトフェンプロックス	218	3	1.38	0.002	0.03
アセフェート	220	3	1.36	0.002	0.002
ジフェノコナゾール	230	3	1.30	0.01	0.02
チアベンダゾール	231	3	1.30	0.003	0.01

表10 加工食品(輸入品)

農薬等	検査数	検出数		検出値(ppm)	
		件数	%	最小	最大
シベルメリン	3,114	146	4.69	0.01	0.86
チオジカルブ及びメソミル	114	5	4.39	0.027	0.1
クロルフルアズロン	140	6	4.29	0.01	0.079
イミダクロプリド	2,521	100	3.97	0.001	0.2
アセタミプリド	1,149	43	3.74	0.001	0.1
ディルドリン	4,269	139	3.26	0.002	0.2
メタラキシル及びメフェノキサム	2,308	53	2.30	0.01	0.07
ヘキサクロベンゼン	1,039	22	2.12	0.01	0.04
ジトモルフ	2,307	45	1.95	0.01	0.34
フルフェノクスロン	1,564	25	1.60	0.002	0.35
プロシミドン	2,928	46	1.57	0.005	0.39
アゾキシストロビン	2,389	31	1.30	0.002	0.4
メソミル	2,155	27	1.25	0.01	0.15
エトキシキン	3,567	43	1.21	0.01	0.06
イソプロチオラン	2,384	27	1.13	0.01	0.05
シハロトリン	2,821	30	1.06	0.01	0.15
トリアジメノール	4,781	48	1.00	0.01	0.09
プロメリン	3,461	32	0.92	0.002	0.06
キャプタン	111	1	0.90	0.02	0.02
インドキサカルブ	2,386	15	0.63	0.01	0.03

食品用器具及び容器包装の規制に関する検討会について

厚生労働省医薬・生活衛生局
生活衛生・食品安全部基準審査課

1. 趣旨

我が国の食品用器具及び容器包装は、食品衛生法(昭和 22 年法律第 233 号)に基づき規格基準が定められているが、その規制の仕組みは、既にポジティブリスト制度を採用している欧米の規制とは異なり、国際的な整合性がとれていない。

このため、有識者からなる「食品用器具及び容器包装の規制のあり方に係る検討会」を設置し、国内外の知見や技術進歩に関する調査等を行い、昨年6月に中間取りまとめを作成した。

この中間取りまとめを踏まえ、器具及び容器包装の安全性を高めるための具体的な仕組みを検討することを目的として、学識経験者、消費者、地方自治体、業界関係者等の幅広い構成員からなる「食品用器具及び容器包装の規制に関する検討会」を開催する。

2. 検討事項

- (1) 規制のあり方と目指すべき方向性
- (2) ポジティブリスト制度の具体的な仕組み
 - ・適用する範囲
 - ・ポジティブリスト制度の具体的手法 等
- (3) ポジティブリスト制度を円滑に運用するために必要となる仕組み
 - ・事業者間等の情報伝達を確保する仕組み 等

3. スケジュール

○第1回 8月23日開催

- ・座長の選出、食品用器具及び容器包装の現行制度及び現状について事務局から説明、検討に当たっての主な論点(案)について議論

○第2回 9月30日開催予定

- ・関係者からのヒアリング、議論

○第3回以降 月1回程度を目処に開催

- ・関係者からのヒアリング、議論を実施し、平成28年度末を目処に取りまとめを目指す

構成員名簿

氏名	職名
伊藤 廣幸	(一社) 日本フランチャイズチェーン協会専務理事
◎ 大前 和幸	慶應義塾大学医学部教授
小倉 寿子	(一社) 全国消費者団体連絡会政策スタッフ
鬼武 一夫	日本生活協同組合連合会品質保証本部安全政策推進部長
小野 和也	(一社) 日本乳容器・機器協会技術統括委員長
重倉 光彦	ポリオレフィン等衛生協議会専務理事
中嶋 伊和夫	(一社) 全国清涼飲料工業会技術部長
西川 裕二	埼玉県保健医療部食品安全課長
野田 晴美	(公社) 日本食品衛生協会食品衛生研究所化学試験部化学試験課長
古橋 裕之	日本ポリプロ(株) 品質保証部長
○ 堀江 正一	大妻女子大学家政学部食物学科教授
松井 秀俊	東洋製罐(株) テクニカル本部基盤技術部製品アセスメントグループ主査
六鹿 元雄	国立医薬品食品衛生研究所食品添加物部第三室長
森田 満樹	(一社) FOOD COMMUNICATION COMPASS 代表
横田 明美	千葉大学法政経学部准教授

◎ : 座長

○ : 座長代理

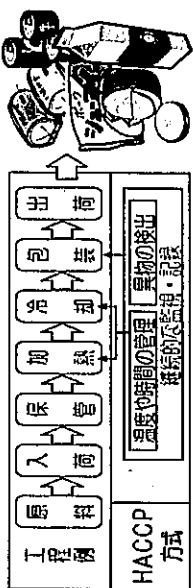
食品衛生管理の国際標準化に関する検討について

食品衛生管理の国際標準化に関する検討会開催の趣旨

食品衛生管理の国際標準であるHACCP※の普及により、安全性の高い食品の生産性の向上が期待される。欧米等先進国をはじめとした諸外国ではHACCPに基づく衛生管理の制度化が進んでおり、我が国においても従来の画一的な衛生管理基準を見直し、HACCPの制度化により導入を進め、異物混入や食中毒の防止など食品の安全性の向上を図る必要がある。

※HACCP (Hazard Analysis and Critical Control Point) とは

- ① 原材料の入荷から出荷までに発生するかもしれない食中毒汚染や異物混入を防止する特に重要な工程を管理する食品の衛生管理の手法
- ② 事業者が自らが使用する原材料、製造方法に応じて策定、実行
- ③ FAO/WHO合同食品規格委員会（コーデックス委員会）策定の国際基準



主な検討事項

- ① 我が国の食品衛生管理において、HACCPを制度化するための具体的な枠組み等を検討する。
 - ▶ HACCP衛生管理が求められる対象食品の範囲及び対象事業者の規模
 - ▶ HACCP導入事業者に対する総合衛生管理製造過程承認制度（丸総）の整理
 - ▶ 対象外の食品に対するHACCP普及のあり方や任意の制度の導入
 - ▶ 自治体による監視指導のあり方 等
- ② 輸入食品の食品衛生管理において、HACCPを制度化するための具体的な枠組み等を検討する。
 - ▶ 輸入食品のHACCP適合の確認・監視の手法
 - ▶ 諸外国におけるHACCP制度との同等性確認の方法 等
- ③ HACCPに関する用語の整理を行う。

食品衛生管理の国際標準化に関する検討について（その2）

構成委員

氏名	職名
五十君 静信	東京農業大学応用生物科学部生物応用化学科教授
内堀 伸健	日本生活協同組合連合会・総合品質保証担当
川崎 一平	(一財) 食品産業センター技術環境部長
岸田 一男	(公社) 日本輸入食品安全推進協会理事 (株式会社 明治 執行役員)
桑崎 俊昭	(公社) 日本食品衛生協会専務理事
河野 康子	(一社) 全国消費者団体連絡会事務局長

氏名	職名
関根 吉家	(一社) 日本能率協会審査登録センター システム審査部技術部長
土谷 美津子	イオン株式会社
中嶋 康博	東京大学大学院農学生命科学研究科教授
中村 重信	東京都保健福祉局健康安全部食品監視課長
山口 由紀子	相模女子大学人間社会学部社会マネジメント学科 教授

スケジュール

平成28年3月初から検討を開始し、以下のとおり約8回の検討会の開催を通じて、平成28年末を目途に検討会報告書を取りまとめる。

検討会開催予定	主な内容
平成28年3月7日	HACCPを取り巻く国内外の現状説明
平成28年4月22日	議論のポイントの討議・整理
平成28年5月23日	事業者団体からのヒアリング（乳、水産加工品、清涼飲料、レトルト食品の団体）、討議
平成28年6月15日	事業者団体からのヒアリング（食肉、食鳥肉の団体）、討議
平成28年7月13日	事業者団体からのヒアリング（食鳥卵、食肉製品、給食、惣菜、弁当・ピザの団体）、討議
平成28年8月22日	事業者団体からのヒアリング（外食、味噌、醤油、漬物、パンの団体）、討議
平成28年9月9日	事業者団体からのヒアリング（飲食店の団体）、討議
平成28年9月20日	「とりまとめ骨子（案）」に関する討議
意見募集	
平成28年12月	とりまとめ

